

聞きたくない意見に 大切なヒントがある



DISC
2
トラック9

「親の意見となすびの花は、千に一つも無駄はない」という諺ことわざを引き合いに出され、口答えをいっさい許さない母親に育てられた私は、幼いときは一見、人の意見によく聞き従う子どもでした。

ところが十代後半ともなると、親にも批判的になり、それまで抑えつけられていたものが一挙に噴き出して、今度は無闇むやみやたらに自己主張する人間に変わってしまいました。

好きな人の意見なら、素直に聞くけれども、嫌いな人の意見には耳を貸さない。または、相手が嫌いというだけで、正論に対しても反撥はんぱつする私でした。

その私に、意見というものは、「相手」を離れて、客観的に受け止めるものだと教えてくれた人がいました。

「誰が言おうと、正しい意見には従いなさい。間違った意見に従う必要はない」

と、その人は、はっきり言ってくれました。

相手の意見を検討するためには、まず自分が自分なりの意見、判断を持っていないではなりません。さらに、自分の考えのみが正しいとは限らないという謙虚さと、他人には他人の考えがある、という相手の人格への尊敬も必要なのです。

自分のがそうであるように、他人の意見もまた、その人がたどってきた人生の歴史から生まれたものであり、その人の価値基準に基づいて形成されているということを、頭に入れて聞くことが大切です。

いくら人の意見を聞いたとしても、最終的に決断を下すのは、ほかならぬ自分であり、したがって、その決断の結果に対する責任は、あくまでも自分が取らなければならぬのだという厳しさも、忘れたくないと思います。

自分が「聞きたくない意見」を言ってくれる人を大切にしないとはいけません。そういう意見こそが、案外、自分の取るべき道を、より明確にしてくれるものだからです。